大腸内視鏡検査について

内科　宮本（みやもと）　亮（りょう）

公立世羅中央病院内科の宮本です。消化管診療を専門としており、今回は大腸内視鏡についてお話しします。㎜

増え続けている大腸がん

最新の統計によると、大腸がんは悪性腫瘍の中で男性の死因２位・女性の死因１位であり、やはり最も警戒しなければならないがんの一つです。大腸がんが進行すると、腸管の中で腫瘍が増大することで便通が悪くなったり、便がこすれて出血したりしますが、早期の段階ではほとんどの方が無症状です。

40歳以上の方は一度大腸カメラを！

一方、ほとんどの大腸がんは大腸ポリープの増大によるものとされており、大腸カメラで大腸ポリープを早期に発見し切除することで大腸がんの予防が可能です。大腸カメラさえやっておけばがんが予防できるというのは、肝臓やすい臓などの他の臓器と違う最大の特徴の一つです。

健診で便潜血という検査があり、陽性だと大腸ポリープや痔など何かしらの大腸疾患が考えられるため、大腸カメラを受けるようになっています。しかし、大腸疾患があっても便潜血陰性という検査結果になることもあり、40歳以上の方は便潜血の結果が陰性でも一度大腸カメラを受けてみることをお勧めします。ちなみに、私も広島大学病院のライブセミナーで大腸カメラを受けたことがあり、大腸カメラを入れられるとどのような感触なのかは経験済みです。

当院での内視鏡について

大腸ポリープは６㎜以上で大腸がんのリスクが出現し、10㎜を超えるとがんが含まれる割合が３割程度といわれています。当院では５㎜以上の大腸ポリープは積極的に切除をしており、基本的に一泊入院していただいています。内視鏡切除の方法は、ポリープの根元に液体を注入し、浮き上がったところ金属の輪で縛って通電し切除する、というものです。基本的に治療で痛みが出現することはありません。心筋梗塞や脳梗塞の疾患で抗血栓薬を内服されている患者さんが増えており、術後出血に十分に配慮する必要があります。

また、当院では最新鋭の内視鏡が導入され、非常に高画質であるため、従来と比較しても大腸病変がかなり見つけやすくなっており、患者さんのメリットにつながっています。

2024年に当院で行った大腸ポリープ切除術は計121件でした。病院の規模を考えるとやや多い件数ですが、大腸カメラをもっと受ける人が増えるとさらに大腸ポリープ切除術の件数は増えると推測されます。

大腸カメラが不安な方へ

まだ大腸カメラを受けたことがなく不安な方、又は以前うけて盲腸まで到達するのが難しかった方、痛みが強かった方などおられると思います。当院ではそのような方は鎮静剤を用いることで痛みの少ない内視鏡検査となるよう提案しています。「起きたら検査が終わっていた」という方が大変多いです。大学病院で研鑽を積み、その経験を活かして負担の少ない検査になるよう注力しています。大腸がんで苦労される方が１人でも少なくなるためにも、一度大腸内視鏡検査を受けに受診してみてください。